

第2回北斗市障がい者福祉計画策定委員会 議事録

・日時 令和5年11月20日（月曜日）17:50～19:00

・場所 北斗市役所 3階 第1委員会室

・出席者（策定委員会委員）

社会福祉法人函館緑花会理事長 坂本 徳廣（委員長）

社会福祉法人北斗市社会福祉協議会会長 三上 裕子（副委員長）

北斗市校長会会長 浦田 慎一

北斗市町会連合会会長 大折 伸明

社会福祉法人侑愛会理事長 大場 公孝

北斗市身体障害者福祉協会会長 白石 勝美

北斗市民生委員児童委員連合会会長 田中 幸憲

社会福祉法人侑愛会星が丘寮施設長 中野 伊知郎

北斗市手をつなぐ育成会 水野 あずさ

（北斗市）

保健福祉課長 田中 宏

保健福祉課福祉サービス係長 山本 梢太

保健福祉課福祉サービス係主査 中田 智明

保健福祉課福祉サービス係主事 石中 春香

・欠席者（策定委員会委員）

手話サークルLの会会長 小林 千代子

議事録

会議次第	発言者	発言要旨
1 開会 (18:00)	田中課長	<p>ただいまから、第2回北斗市障がい者福祉計画策定委員会を開会いたします。本日も夕方のお忙しい時間にもかかわらずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。なお、本日は60分程度で協議していただく予定でございますのでご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>なお本日は、小林委員が欠席されております。</p> <p>それでは、議事の進行につきましては、坂本委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
2 議事	坂本委員長	<p>それでは、早速会議次第に沿って進めさせていただきます。</p> <p>まず、「議事（1）福祉に関するアンケート調査について」です。</p> <p>事務局より説明願います。</p>
	事務局	(資料1-1、1-2により説明)
	坂本委員長	ただ今の説明について、何か質疑等ございませんか？
	中野委員	強度行動障害があると言われたことがあると回答された方について、障害区分別の人数をお知らせください。
	事務局	回答いただいた実人数は36人で、内訳として身体障がい14人、知的障がい21人、精神障がい10人となっている。ひとりで複数の手帳を所持している方もいるため、合計は一致していません。
	坂本委員長	<p>それでは、次に「議事（2）第7期北斗市障がい者福祉計画・第3期北斗市障がい児福祉計画（素案）について」です。</p> <p>事務局より説明願います。</p>
	事務局	(資料2により説明)
	坂本委員長	ただ今の説明について、何か質疑等ございませんか？
	田中委員	資料2のP6、「計画の期間」の年度表示について、前回計画のような白抜きの方が見やすいのではないかと。文字サイズは前回よりも大きくなったように見やすくなったと思う。

会議次第	発言者	発言要旨
	事務局	ご指摘のあったとおり修正したい。
	田中委員	重層的支援体制整備事業は市が主体となって実施するのか。
	事務局	現時点では市から市社協に委託する形で、令和6年度から準備を行い、令和7年度からの本格稼働というスケジュールを想定している。
	中野委員	人口が減少していく中で、知的及び精神の障がいをお持ちの方は増えていく状況にある。介護・子育て分野のように障害分野で人材を確保していくという施策や数値目標を今後盛り込む予定はあるか。
	事務局	<p>介護・子育て分野の人材確保については、市独自の事業としながらも、近隣の2市1町で歩調を合わせて実施していくものである。</p> <p>障害分野についても、第2弾で考えていかなければならないと思っているが、時期などは未定である。</p>
	坂本委員長	計画期間に関し、北斗市は3年、北海道は6年とのことだが、期間が異なることで、整合性を取る観点からも何か支障はないのか。
	事務局	<p>地方からの意見があり、今回の計画から国の方針が変更となり、柔軟な期間設定が可能となったが、計画の期間中であっても成果目標等との乖離が生じた場合などには見直しを行うこととされている。</p> <p>そのため、実質3年で見直しの検討を行うことになると思われることから、大きな支障はないものと考えている。</p>
	坂本委員長	各委員から質問でなくとも、感想などあればお聞かせ願いたい。
	三上委員	<p>本日の新聞記事で特養閉鎖の危機として記事が出ていたが、やはりこれも人材不足が原因によるものようだ。</p> <p>市の予算にも限りがあると思うが、何かしら人材確保に向けた財政支援について明記できればと思う。</p>
	田中委員	施設入所者の地域移行が出されているが、地域に移行するためにも人材や受け入れ先がなければ難しい。
	大場委員	先ほどの特養の話だが、障がい者施設についても近いところまできているという印象である。

会議次第	発言者	発言要旨
3 閉会 (19:00)		職員の数が減るが、募集しても集まらない状況で施設が成り立たない。地域に移行すると、もっと経費もかかり、難しい。
	大折委員	アンケートの自由記載を見ると、市に対する好意的な回答もある一方、指摘といったものも見られる。これら回答に対し、何かしら回答する予定はあるか。
	事務局	当課に関する内容は業務の改善に取り組んでいくとともに、当課以外の内容については関係課に対応を依頼するなど、結果が見える形で進めるようにしたい。
	浦田委員	SDGsの取組について教育現場でも進めているが、大きい目標であるため、なかなか思うように進まない状況である。本計画においてもできるところから進めていきたいと考えている。 教育現場でも人材不足の状況が見られ始めており、今後インクルーシブ教育が進んでいくと、更にそのことが懸念される。
	坂本委員長	委員の皆さま、ありがとうございました。 それでは、次に「議事（3）その他について」です。 委員から何か発言はありますか。
	事務局	参考資料（共同生活援助事業所における入居者の結婚等に係る実態調査結果報告書（概要版））を用いて概要説明。 障がい者の人格、人権擁護の観点から、今回策定する本市の計画に何かしら記載すべきかどうか、次回会議でご意見をいただきたい。
	坂本委員長	事務局より説明がありましたが、よろしいでしょうか。 これで第2回北斗市障がい者福祉計画策定委員会を終了させていただき、進行を事務局にお返ししたいと思います。 ご協力ありがとうございました。
田中課長	次回の委員会は12月下旬の開催予定です。今回同様ご協議をお願いしたいと考えておりますので、ご協力お願いいたします。 本日は、長時間にわたり、熱心なご協議をいただきありがとうございました。	